

日本中世英語英文学会 第35回 西支部例会

日時：2019年6月1日（土） 13：00～17：10

会場：岡山理科大学 岡山キャンパス 創立50周年記念館
〒700-0005 岡山市北区理大町1-1 086-256-8431（代表）
<https://www.ous.ac.jp/access/okayama/>

総 会： 4階多目的ホール
研 究 発 表： 4階多目的ホール
新 刊 紹 介： 4階多目的ホール
ワーキングショップ： 4階多目的ホール
懇 親 会： ホテル メルパルク岡山
レストラン「ミザール」

日本中世英語英文学会西支部事務局
〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3
広島大学大学院文学研究科 大野英志研究室内
TEL: 082-424-6678
E-mail: west.jsmes@gmail.com

第35回西支部例会プログラム

I 受付 (12:00~13:00 1階エントランスホール)

II 開会式および西支部総会 (13:00~13:30 4階多目的ホール)

司会 山村誠治 (京都産業大学非常勤講師)

[開会式]

日本中世英語英文学会会長挨拶

寺澤 盾 (東京大学教授)

開催校挨拶

山中芳和 (岡山理科大学教育学部長)

日本中世英語英文学会事務局報告

堀田隆一 (慶應義塾大学教授)

[西支部総会]

事務局報告

大野英志 (広島大学准教授)

会計報告

西村秀夫 (三重大学教授)

会計監査報告

吉川史子 (広島修道大学教授)

会場案内

地村彰之 (岡山理科大学教授)

III 研究発表 (13:40~14:20 4階多目的ホール)

Geoffrey Chaucer の作品に見られる pragmatic marker について

木村典政 (広島大学大学院)

司会 家入葉子 (京都大学教授)

IV 新刊紹介 (14:20~15:00 4階多目的ホール)

『いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか』

岡本広毅 (立命館大学准教授)

小宮真樹子 (近畿大学准教授)

司会 藤井香子 (大阪大学非常勤講師)

<休憩>

V ワークショップ (15:20~17:00 4階多目的ホール)

チヨースーを読む

西村秀夫 (三重大学教授)

濱口恵子 (元土佐女子短期大学教授)

野地 薫 (関東学院大学非常勤講師)

中尾佳行 (福山大学教授)

VI 閉会の辞 (17:05~17:10 4階多目的ホール)

小塚良孝 (愛知教育大学准教授)

VII 懇親会 (18:00~20:00)

ホテル メルパルク岡山 (〒700-0984 岡山市北区桑田町 1-13)

レストラン「ミザール」 <https://www.mielparque.jp/okayama/>

会費： 一般 5,000 円 学生 3,500 円

【研究発表】

Geoffrey Chaucer の作品に見られる pragmatic marker について

木村典政 (広島大学大学院)

司会 家入葉子 (京都大学教授)

本研究発表は Geoffrey Chaucer の作品の中に見られる *I believe, I guess, I think, I woot* などの pragmatic marker に注目し、その特徴を考察しようとするものである。

Pragmatic marker の研究に関しては Quirk *et al.* (1985) や Brinton (1996, 2008, 2016) を始めとした多くの研究がある。また通時的研究として、古英語や中英語における種々の pragmatic marker に関する研究も行われている。特に Brinton (1996, 2016) は Geoffrey Chaucer の *The Canterbury Tales* と *Troilus and Criseyde* の 2 作品において、*I guess* を始めとする first person epistemic parenthetical (現代英語における *The world is flat, I think* という文における ***I think***; 以下 FEP とする) についての研究を行っている。Brinton は、場面を語り (Chaucer 自身や登場人物による物語の語り) と会話という 2 つの観点に分け、通時的变化を踏まえ、それぞれにおいて、FEP に現代英語と同じような、話者の uncertainty や聞き手に対する politeness, intimacy 等の意味が認められると結論づけている。しかし、それ以外の視点、すなわち FEP を使用する登場人物や、動詞による違い、またそれらを含む文の時制等に関してはあまり深く触れられていない。

そのため、本研究では Chaucer の 2 作品 (*The Canterbury Tales* と *Troilus and Criseyde*) を用いて、*I believe, I guess, I leve, It semeth me, I think, me thynketh, I trowe, I wene, I woot* 等計 16 個の FEP に注目し、その意味だけでなく、対人関係、文の時制、位置、共起する表現、またそれぞれの動詞による違いなどを軸とし、文法化などの通時的な側面にも言及しながら、pragmatic marker の特徴について考察したい。

【新刊紹介】

『いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか』

岡本広毅（立命館大学准教授）

小宮真樹子（近畿大学准教授）

司会 藤井香子（大阪大学非常勤講師）

2019年3月、みずぎ書林より刊行された『いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか』（編者：岡本広毅、小宮真樹子。通称『いかアサ』）は、日本におけるアーサー王物語の受容と変遷を探った一冊です。近年、「マーリン」「エクスカリバー」「聖杯戦争」といったアーサー王に関連した用語が、若者を中心に SNS で頻繁に取りあげられています。また、メディア媒体の多様化（マンガ／アニメ／ゲームなど）に伴い、アーサー王物語は様々な創作の素材となり、実に多彩な展開をみせています。本書はこうした状況に目配りし、西洋の一大英雄譚がいかにして日本に取り入れられ、どのように受容・享受されてきたかを考察しています。

国際アーサー王学会日本支部のシンポジウムが発端となって生まれた一冊ではありますが、本書は研究者だけでなく、娯楽を通じてアーサー王の世界に興味を持った一般読者も想定しております。さらに執筆陣も、大学教員からゲームライター、中世文学をこよなく愛する社会人の方と、多岐にわたります。これは、コンセプトとして「学術」と「ポップカルチャー」の橋渡しを打ち出しているためです。今回の新刊紹介では、本書の構成や工夫、中世ヨーロッパへ向けられた現代日本からの関心、そして学術界と娯楽／創作領域との協力などについて触れられればと思います。

【ワークショップ】

チヨースーを読む

趣旨 本ワークショップは、日ごろチヨースーのテキストを読む中で遭遇した難読箇所、従来の解釈に対する疑問、新たな分析の視点などを発表者が示し、フロアとインフォーマルに意見交換しながら考えていく機会を提供することを意図しています。参加される方は、各発表者が取り上げる作品に事前に目を通していただきますようお願いいたします。

登場人物の肉声を聴く

西村秀夫（三重大学教授）

チヨースーの『カンタベリ物語』を語学的な立場から読んでみると、どう考えても構文的に不自然で、意味が取れないという箇所に遭遇することがよくある。その際、これまでの注釈や翻訳はそこをどのように解釈しているか、その解釈に至るまでにどのようなプロセスを経ていると考えられるのか、当該箇所について写本間の異同から何か手がかりを得ることはできないか、新たな解釈を提示することができないか、などと考えることは楽しいことで、まさにフィロロジーの醍醐味と言えるだろう。私は今回、チヨースーのテキストを構文にこだわりながら解釈していく際に生じる「ゆらぎ」（≒構造的な曖昧さに起因する解釈の多様性）について話題を提供したい。具体的には「語り」における間接話法から直接話法を再現することを試みる。例として、「学僧の物語」547-50行におけるグリゼルダ、「郷土の物語」1256-60行におけるアウレリウスの発話を取り上げ、切羽詰まった状況に置かれた登場人物たちが発した声がどのようなものであったか考えてみたい。

何故チョーサーは「弁護士の話」の前口上を挿入したのか？

濱口恵子（元土佐女子短期大学教授）

「弁護士の話」の紹介の最後で、弁護士は、韻律はチョーサーに任せて、自分は散文で語りましょうという言葉とともに話を始めたとなっている。しかし次にくる前口上では、彼は、冒頭、「ああ、憎たらしい害悪め、貧困の状況よ！」(II.99)と叫び、貧困への嫌悪や貧者の惨めさについて長々と述べるのである(II.99-133)。貧困についての記述が大半を占める前口上は、チョーサーの時代に広く知れ渡っていた、教皇インノケンティウス三世(1161-1216)による『人間の悲惨な境遇について』(*De miseria condicionis humane*)をパラフレイズしたものであり、チョーサーが翻訳したことは、『善女物語』(G 413-15)の中で明記されている。前口上の最後は異国の海を渡り歩く金持ちの商人の称賛で締め括り、昔、商人から聞いた話をしましょう(II.132-33)と弁護士は言って、話に移る。シリアの商人の描写で始まる話の冒頭は商人の称賛で終わる前口上と一見繋がっているようだが、貧困への嫌悪や警告の部分は、話の中の、異教徒の改宗、異国で受ける偏見や悪意、追放、海での放浪などの苦難を経験するクスタンスの流離譚とは何の関係もない。前口上の挿入については研究者の間でも問題視され、いまだ解決に至っていない。この迷宮の世界で、歴史的な文脈と、前口上や話との関わりに謎へのカギを探ってみたい。

チヨースーの秘めた想いを探って

野地 薫（関東学院大学非常勤講師）

チヨースーの『カンタベリ物語』を読んでいると、とても短い描写でありながら、ストーリー展開のキーポイントとして重要な役割を果たしていると解釈できる箇所、あるいは一見無関係な描写の中に、巡礼者、または巡礼者が語る物語の登場人物の性格や本質を端的に表していると考えられる箇所が、散りばめられていることに気づく。それは時として、チヨースーの意図を色濃く反映しているのではないかと考えられ、表向きの解釈とは異なる筆者の奥深い真意を感じることができる。「メリベウスの話」には、家に押し入り、娘に傷を負わせた者に復讐しようとする夫をなだめるブルーデンスの賢妻ぶりが描かれている。しかし最終的に夫を従わせたのは、頑なな夫に業を煮やしたブルーデンスが一瞬見せた怒りの表情 (1687) であった。またパースの女房は、夫に先んじて攻撃する理由を「そうでもしなければ痛い目にあわされることがあったから」(388) と明かし、幼くして老人と結婚し、生き延びる術を身につけていった悲哀を覗かせている。さらに上品で淑やかな女子修道院長は、少年の殉教を通してマリア様を称える話をいかにも似つかわしげに話しているが、そこには必要以上と思えるような残忍でグロテスクな表現が含まれている (571-73, 634-35, 649, 671)。このような箇所が人物や物語全体にどう関わり、どのような意味を持つのか、その解釈について考えを提示し、「チヨースーの秘めた想い」を探るための問題提起としたい。

チョーサーの「歴史的現在」と視点 — 「ジェネラルプロローグ」185–89 行を中心に—

中尾佳行（福山大学教授）

チョーサーの「歴史的現在」は、早くは Benson (1961) が動詞の相と関係づけ、エンドポイントが不明な活動動詞 (activity verbs) に多用され、他方、過去形は因果関係を明確にすることを指摘した。Visser (1972) は韻文に多用され、韻律と脚韻要請のためと捉えた。Kerkhof (1982) は Benson と Visser を批判的に検討し、現在形と過去形のテンス・スイッチが重要、“vividness” は過去形にも適用されるとした。Fleischman (1990) は Halliday (1976) の機能論を援用、時制は意味論的に 4 層 (referential, textual, expressive, metalinguistic) からなるとし、中世フランス文学で例証した。Fludernik (1993) は「語り論」を導入し、特にチョーサー文学の口承性に留意、話法の選択と“gnomic”の問題を掘り下げた。中安 (2013) は語用論の立場から「歴史的現在」の効果を“synchronization”に帰した。Moore (2015) は、中世写本は直接話法と地の文を識別する句読点がなく、語り手が人物か、言語主体が曖昧であることを指摘した。19 世紀に飛ぶが、Brinton (1992) はシャーロット・ブロンテを取り上げ、「歴史的現在」には“evaluation”が通底するとした。中世にも当てはまるのではないか。当該研究は多岐に渡るが、徐々に認知論、語り論の立場を重視し、再考されてきている。本発表では Fleischman (1990) の expressive (視点の介入) を基軸に、「ジェネラルプロローグ」185–89 行を中心に検討する：“True, but to whom?”。

What sholde he studie and make hymselfen wood,

(sholde は時制のバックシフト?、仮定法過去?)

Upon a book in cloystre alwey to poure, (下線は筆者)

Or swynken with his handes, and labour,

As Austyn bit? How shal the world be served?

Lat Austyn have his swynk to hym reserved!

Therefore he was a prikasour aright:

CT GP I (A) 185–89

(チョーサーのテキストは Benson 1987 に拠る。写本・刊本の異同についても取り上げる予定。)

岡山理科大学 岡山キャンパス

最寄り駅：JR 岡山駅

アクセス：JR 岡山駅の運動公園口（西口）から岡電バス「47 岡山理科大学」
行きで約 20 分、タクシーで約 15 分

バス時刻表（抜粋）

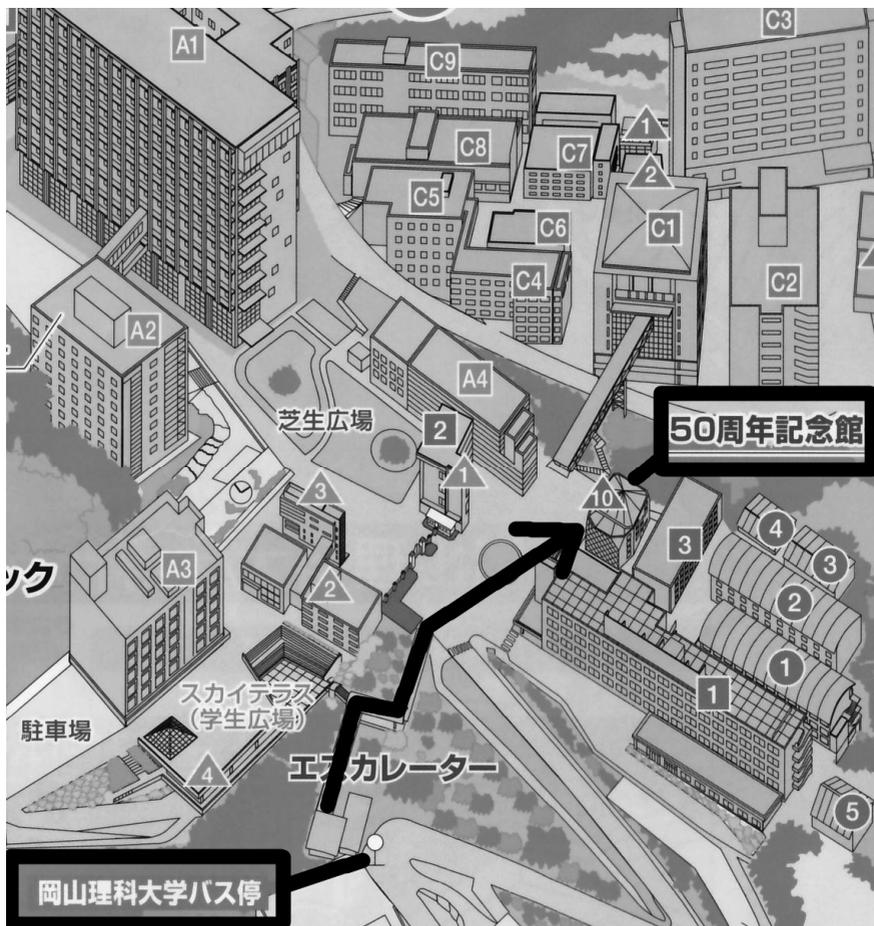
岡山理科大行き（22 番乗り場）

岡山駅西口		岡山理科大学	岡山駅西口		岡山理科大学
11:24	→	11:44	12:40	→	13:00
11:50	→	12:10	13:00	→	13:20
12:15	→	12:35	13:20	→	13:40

岡山駅行き

岡山理科大学		岡山駅西口
16:55	→	17:13
17:20	→	17:40
17:45	→	18:05

キャンパスマップ



食堂は、A1号館地下の「リラ」が11:00～14:00の営業（カレーのみ）です。
売店は、A3号館1階の「グランドマート」が8:30～17:00の営業です。

日本中世英語英文学会西支部会則

(2001年6月17日 施行)
(2009年6月14日 一部修正)
(2016年6月4日 一部修正)
(2017年6月3日 一部変更)

第1条（名称）本会は日本中世英語英文学会西支部（The Western Division of the Japan Society for Medieval English Studies）と称する。

第2条（目的）本会は日本中世英語英文学会の支部機関として同会と連携しつつ、支部会員の研究の促進と交流のために寄与することを目的とする。

第3条（事業）本会は第2条に定めた目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 例会および総会の開催（年1回）
- (2) 講演会の主催および共催
- (3) 各種情報の連絡・通知
- (4) その他必要と認めた事業

第4条（会員）本会は第2条に定める目的に賛同し、別に定める細則によって会費を納入するものを会員とする。

第5条（役員）(1) 本会に次の役員を置く。

支部長 1名 運営委員 5名 監査委員 1名

支部長および監査委員の任期は2年、運営委員の任期は3年とし、原則として再任は認めない。ただし、1期以上の間をおいて再任され得るものとする。

(2) 役員の職務

- (イ) 支部長は本会を代表し会務を統括する。
- (ロ) 支部長は総会・運営委員会を招集してこれを主宰する。
- (ハ) 運営委員は運営委員会を構成し、本会の運営に関わる重要な事項を審議する。
- (ニ) 監査委員は本会の財産および事業の執行状況を監査する。

(3) 役員の選出

- (イ) 支部長は運営委員の推薦（互選を含む）により選出し、総会にて承認を受けるものとする。
- (ロ) 任期満了に伴う運営委員の補充は運営委員会の推薦によるものとする。
- (ハ) 監査委員は運営委員の推薦により選出し、総会にて承認を受けるものとする。
- (ニ) 支部長が運営委員の中から選ばれた場合はその運営委員の補充を行うものと

する。

役員の選出に関わるその他の事項は、別に定める細則によるものとする。

第6条（会則の変更） 本会則の変更は運営委員会が発議し、総会で決定する。

細則（第4条）

- (1) 一般会員の会費は年額 2,000 円とする。ただし、退職者・常勤職にない者の会費は 1,000 円とする。
- (2) 学生会員（学部生・大学院生）の会費は年額 1,000 円とする。
- (3) 一般会員として 20 年を経過し、満 70 歳になる年の年度以降に 10,000 円を納入する者を終身会員とする。
- (4) 本会の会計年度は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

細則（第5条）

- (1) 運営委員の構成にあたっては分野および地域性を考慮する。
- (2) 運営委員は半数改選（2 名もしくは 3 名）を原則とする。
- (3) 在外研究その他の事由で支部長、運営委員、監査委員に欠員が生じた場合は、第 5 条(3)の規定に準じて補充する。

2019 年度日本中世英語英文学会西支部事務局

支 部 長： 大野英志

運営委員： 岡本広毅 小塚良孝 小宮真樹子 藤井香子 山村誠治

監査委員： 平山直樹

◎日本中世英語英文学会西支部の振替口座番号は以下の通りです。会費の納入などにご利用ください。

ゆうちょ銀行 01320-7-90883

（他金融機関から 当座 139 0090883）

加入者名： 日本中世英語英文学会西支部

〒739-8522 東広島市鏡山 1-2-3

広島大学大学院文学研究科 大野英志研究室内

支部長 大野英志